

地蔵桜

浜通りにある、原子力発電所

全員集合も、カップリンクも、

東京のソング同好は

浜通りの電気を使いつ番組を作ったのだ。

福島県はあつじごだよん。

そつ聞いて育った。

なにも知らなかつじの幸せ。



防護服を着て桜並木を通ったとつじ歌を思い出しなが
ら見た地蔵桜。

確かに原発は大きな事故で、まだまだ心配だけれど、
このことで人の心に何かの意識がそれぞれ別の形で出
てきたことは、大きな良かったことではないだろうか。

森に入り、木々の声に耳をすました。

何十年ぶりだったつじ。

木々はまだ希望を捨てていなかったんだ。

あの日のあの地震

2014. 04. 14

震源地、浜通り。冷静な親からの電話。津波の映像。断水。

ガンリン不足。食料不足。メルトダウンという言葉。

三ツ素の支給。脱出を仰ぐ人々。

あふれかえった情報とつ何を信じるかを探す日々。

知ることは幸せなんだつじか

「握り人の罪」 作詞／沢田研一 作曲／大山泰輝

昔 海辺の小さな寂れかけた村に

東電が来て 原発速く作りたいと

国の肝入り工事は 直ぐに道路を通し海岸や丘を削って

反対意見は軽んじ 機動隊投入

東電も信じた 受け入れ側も信じた

安全神話鵜呑みに 一握り人の罪

海が命の漁師は 海が死ぬのを怖れた

村はいびつに裂かれた 一握り人の罪 嗚呼無情

いつか原発廃炉に 除染は何年先

東電は未来型エネルギーに無関心か

国もただこまめくだけ 被災地に 僕たちに

復興延々と進まず 国は荒むよ

僕らに還して国を 原発にこわれた町

神話を流したのは誰 一握り人の罪

原発に怯える町 原発に狂った未来

繰り返すまい 明日に 一握り人の罪 嗚呼無情

仮設が学校の校庭に建てられ、

庭に植えたリンゴや梅や杏やブドウの木は、

除染のために切られ、

脱原発、廃炉とつじ言葉にやめて気持ちも慣れてきて、

さびれた温泉宿は建設会社の看板に変わった。

心は分裂し、

福島にいわは食べる農作物や魚貝類も、

県外に出ると避けてしまう。

本町のつじ、

どつじに向かったら私たちは幸せなんだつじ。